親水護岸・慰霊セレモニーについて

メチル水銀によりいのちを落とした人、猫、鳥、魚などさまざまな生き物に対して、そしてそれを生み出してしまった人間の生活のありかたを考える場として水俣湾の前で心静かに鎮魂の地でのセレモニーを行いませんか。

ここは、水俣病患者のみならず水俣市民にとって大切な場所でもあります。毎年 5 月 1 日は、被害者や患者、支援者、水俣市民、国・県・市、そしてＪＮＣ（旧チッソ）幹部が訪れ慰霊式典を行う場所でもあります。2013 年には全国豊かな海づくり大会で天皇皇后両陛下もこの地を訪れ、語り部や患者の方たちと言葉を交わされました。

水俣病慰霊の碑セレモニーの流れと進行案

生徒さんが進行される場合、旅行委員や生徒会、環境活動を行っている生徒さんたちが中心になって進められている式次第や台本の案をご紹介しますので参考にして、ぜひとも貴校オリジナルのセレモニーを行ってください。

■セレモニー式次第の事例（所要時間・約 20 分）

	式次第	備考
1	整列	
2	開会の挨拶	
3	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾊﾟｰﾄﾅｰからの言葉	
4	みなまたの約束読み上げ	省略可
5	献花もしくは千羽鶴奉納	省略可
6	梵鐘および黙祷	代表 2 名が鐘をならす
7	生徒代表祈りの言葉	省略可
8	閉会の挨拶	

■セレモニー台本の事例

司会生徒：これから水俣病慰霊のセレモニーを行います。まずは、私たちを案内していただいたフィールドパートナーの方より、お話しをしていただきます。ではお願いします。

＝フィールドパートナーからのお話し＝

司会生徒：ありがとうございました。続きまして、「水俣の約束」**※添付資料参照**をみんなで読みあげます。この「みなまたの約束」は、「欲望に流され便利さや快適さのみを追求しない。命や自然を犠牲にしない暮らしを選び取ること。」を考え、二度と悲劇を繰り返さないために、水俣病公式確認５０年目のとき、水俣市民によってつくられました。これは、水俣に限らず私たちにも大切なことが書いてあります。みんなでこの言葉を私たちの学校、地域、生活に置き換えて考えましょう。では、〇〇さんお願いします。

＝代表生徒とみんなで「水俣の約束」を読みあげる＝

司会生徒：次に慰霊碑に献花（あるいは千羽鶴など奉納）を行います。代表の方、前にお願いします。

＝献花（あるいは千羽鶴など奉納）＝

司会生徒：ありがとうございました。これから亡くなったいのちに追悼の意を表して黙祷を捧げたいと思います。代表のお２人は前にお願いします。山の鐘と海の鐘を鳴らして黙祷を行います。（２人が鐘を打つ）黙祷。

＝黙祷＝　約１分

司会生徒：おなおりください。

司会生徒：最後に終わりの言葉です。〇〇さんお願いします。

＝代表生徒、一言感想や誓いなどを述べる＝

司会生徒：ありがとうございました。これで水俣病慰霊の碑セレモニーを終了します。

※上記以外にも、最後にオリジナルの言葉、合唱などを加える学校もあります。
※献花の手配は環不知火プランニングで可能です（2,160 円～）。
※司会進行は、生徒さんが行うことをお勧めしますが、環不知火プランニングのフィールドパートナーが行うことも可能です。

※環不知火プランニングでフィールドパートナーの手配をしていただいた場合は、セレモニー時に無料でマイクをお貸しすることが可能です。

■参考資料１

「水俣の約束」 の趣旨と目的

生き物や自然を犠牲にしない人間の暮らしを選び取ることが二度と水俣病のような悲しく苦しい悲劇を起こさないための前提条件である。そうした考えを基準にし、みなまた塾委員会（未来の水俣地域を担う人材を育成するための塾：地域住民有志で設立）で検討を重ね、また外部のアドバイスを受けながら 8 項目の自己宣言「みなまたの約束」を作成しました。

２００６年１０月２１日　みなまた塾委員会

「水俣の約束」

水俣は過去５０年の歴史の中には、いろいろな失敗がありました。そして、これらの経験を通じ、汚染された自然環境や 混乱した社会環境を元に戻すことの困難さを水俣は学びました。これからの５０年に向かって、自然とのつきあい方、暮らし方、産業活動、コミュニティを「もやい」で捉え直し、いのちの輝きを増していきます。人が好き、自然が好き、住んでいる場所が好きと、素直に言える「まち」をつくります。

1. **水俣はいのちを大切にします。**
2. **周りに異変があるときは、現場の声を大切にして、目をそらさず、しっかり調べます。**
3. **産業活動の目的は、利潤追求だけではなく、真の豊かな暮らしを支えることです。**
4. **行政の仕事は、住民とともに幸せな暮らしをつくりだすことです。**
5. **モノの豊かさだけの時代を越えて、もったいない精神の、落ち着いた暮らしを創造します。**
6. **失敗から学ぶことによって、失敗を無駄にしません。犯した過ちを素直に認め、行動で改めていきます。**
7. **過去を振り返り未来を想像しながら、少数の意見にも耳を傾けて、自分たちの地域は自分たちでつくっていきます。**
8. **水俣病の経験を伝えることは、いのちの大切さを伝えることです。**

２００６年１０月２１日　水俣病公式確認５０年事業・みなまた塾委員会

Purpose

21st October, 2006

In Minamata-Juku Committee of "Moyai" sectional group of the 50th anniversary of the official discovery of Minamata Disease Program, people living in Minamata area played a key role in making "Minamatafs promises" as self-declaration of residents. Never to cause sad and painful tragedy again such as Minamata Disease, it is a precondition to choose the way of living that won't sacrifice creature and nature. We would like to make "Minamata's promises"a standard of such a way of thinking and ask for understanding and practice of everyone.

Minamata-Juku Committee

Minamata's Promises

Through the history of the past fifty years in Minamata, there have been many failures. Through these experiences, Minamata has learned how difficult it is to restore the polluted natural environment and the confused social environment. Looking toward the next fifty years, we will reconsider our relationships with nature, our ways of living, our industrial activities, and our community through moyai, a local word meaning "re-mooring," in order to brighten our lives. We will create a town which truly cherishes people, cherishes nature, and cherishes the place in which we live.

1. Minamata values life.
2. When there are changes in our surroundings, we will value the voices of those from that area and will not ignore the problems but will investigate thoroughly.
3. The purpose of industrial activity is not merely to seek profit, but to support a truly abundant life.
4. The job of government officials is to work with residents to create happy lives.
5. Going beyond the age of mere material abundance, we will create spiritually abundant and satisfied lives.
6. There are no mistakes than cannot be corrected, and we will frankly recognize errors we have committed and act to make up for them.

7. While looking back at the past and envisioning the future, we will give ear to the opinions of the minority and work build our own region through our own efforts.
8. Conveying our experience with Minamata disease means conveying the importance of life.

translated by Timothy S. George, October 12, 2006

■参考資料２

◇山の鐘（上にある鐘）

長迫由紀子さん（当時、熊本県立水俣高等学校 3 年生）の詩が刻まれています。

（詩）　今も昔も空の青さに変わりはなく
今も昔も海の青さに変わりはなく
今も昔も山の緑（あお）さに変わりはなく
今も昔も命の輝きに変わりはなく
この変わりなき宝を
この変わりなき命を
現在にそして未来にわたり
守りつづけよう

◇海の鐘（下にある鐘）

水俣病資料館語り部として活動をされた故杉本栄子さんの詩が刻まれています。
杉本栄子さんは、現在語り部として活躍されている杉本肇さんのお母さんです。

（詩）　水俣病の犠牲になった全ての命にお祈りします
海や全ての生き物たちにお願いします
海の者も山の者もそして街の者も
精一杯力を併せてこの海を守っていきます
大事に大事に使わせてもらいます

お問い合わせ先
一般社団法人環不知火プランニング
info@minamatakumamoto.jp
〒867-0051 熊本県水俣市昭和町 2-4-8-1 階
TEL0966-68-9450　FAX050-3730-3585